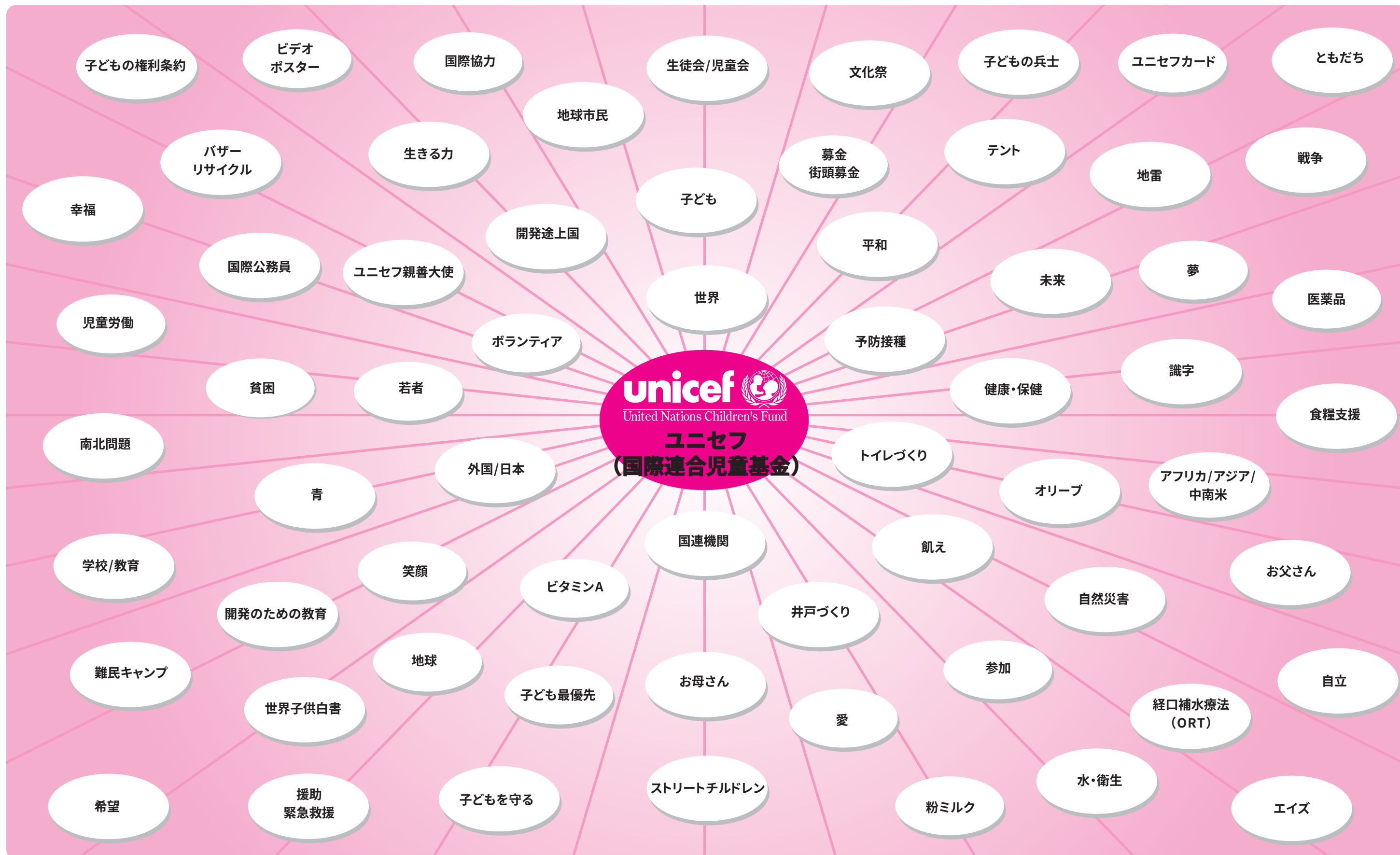
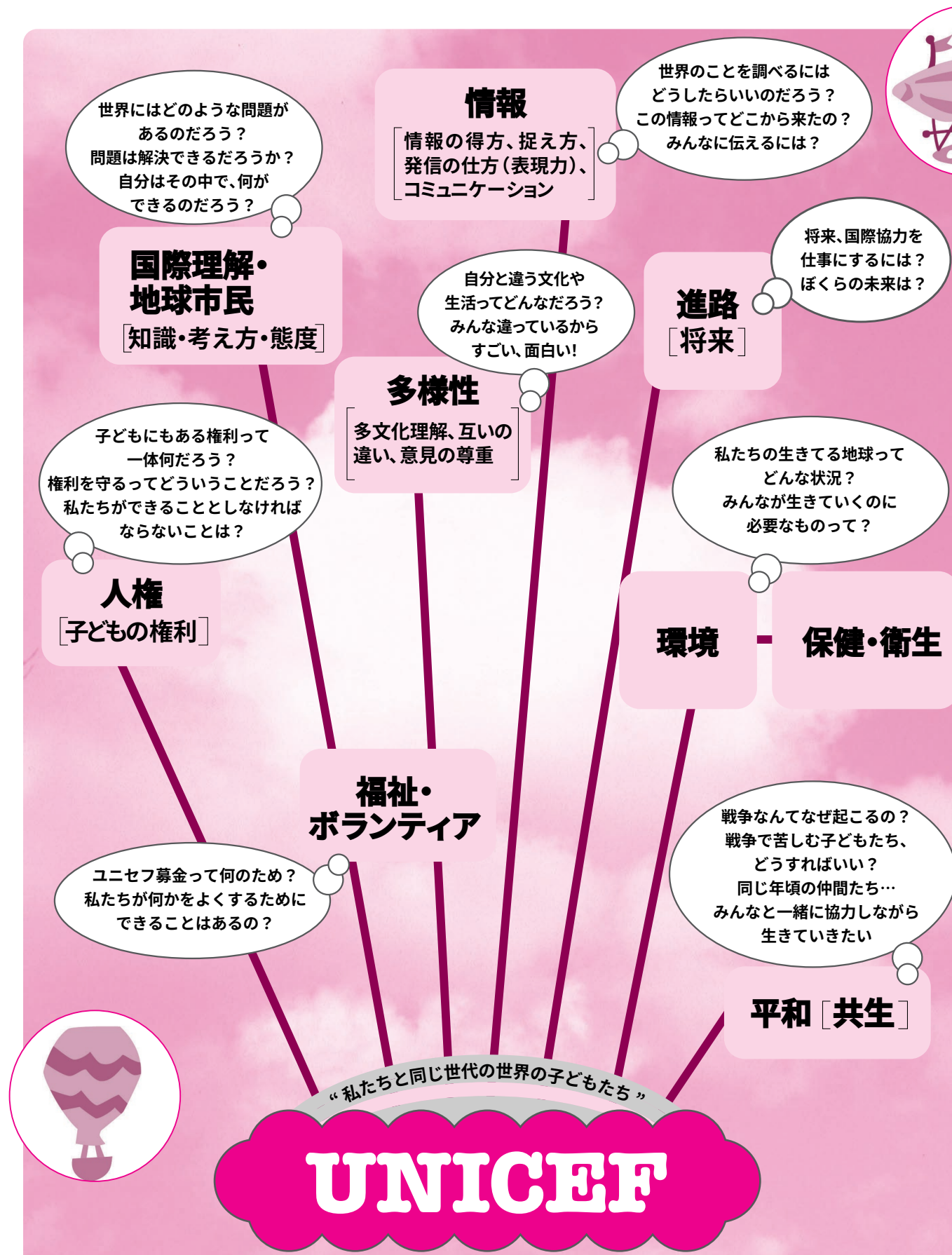


2 ユニセフから広がっていくことば



3 ユニセフを活用して設定可能な学習テーマ



そしてユニセフが提供できる素材は…

■ 現代世界のさまざまな課題と同じ世代の世界の子どもたちについての情報
映像・写真、統計、記事・物語、ホームページ、各種貸し出し教材などユニセフにはたくさんの情報があります。こうした情報源から、さまざまな事実や現状への認識を得るとともに、情報の集め方、情報の理解や分析のしかたなどについても学ぶことができます。

■ 参加型・体験型学習の手法やアクティビティ例
ユニセフが地球市民育成のために提唱している「開発のための教育」は参加型・体験型の教育手法です。ユニセフの情報を合わせて取り入れれば、子どもたちは知識だけでなく、地球市民として必要とされるさまざまな能力を経験的に身に付けていくことができます。(→P12参照)

■ 国連機関の活動や国際協力のありようについての視点
国際機関であるユニセフを通じて国連または国連機関とは世界でどのような存在か、どのような役割を果たしているのか、などを考えることができます。
また、現地でのユニセフの活動のようすについて知ることは、国際協力や開発支援とはどのようなことを意味しているのか、ということを考える視点となります。

■ 実際の協力・行動の場
ユニセフの活動は多くの方からの募金によって支えられています。40年以上にわたって続いているユニセフ学校募金活動は、実際に行動を起こす身近な方法といえるでしょう。街頭募金やユニセフ支援のためのフリーマーケット、リサイクルを行うことも一案です。学んだり考えたりしたことを伝えるさまざまな広報活動も大切です。

■ 人間が生きる上で最低限のニーズや基本的な人権についての資料
ユニセフがその活動の基盤に置いている「子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)」は、現在191の国と地域が締結しており、人権や社会正義に対する普遍的な価値観を提示しています。
使い方を工夫すれば、世界の子どもたちの状況を理解するための手段になるほか、人権、権利と責任などを学ぶ効果的な教材となります。

